

令和 5 年度 動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査計画

1 目的

都内における動物由来感染症の動態を把握するため、実態調査等を実施する。また、その結果を都民や動物取扱業者に還元することにより、動物由来感染症の発生防止を図り、都民の安全確保及び飼い主・動物取扱業者の適正な動物飼養管理等の一層の充実に資する。

2 調査項目

(1) 犬及び猫の寄生虫調査

ア 調査理由

犬・猫の体腔内には、回虫、条虫、鞭虫など様々な寄生虫が寄生している。多くは人獣共通の寄生虫であり、人に重篤な症状を起こすものもある。

保有状況の把握のため、令和 5 年度も引き続き調査を行なう。

イ 調査規模

犬 5 頭、猫 50 頭

ウ 検査方法

糞便検査と解剖検査による心臓内及び消化管内の寄生虫の調査

※動物愛護相談センターで虫卵及び虫体の同定が困難な場合は、健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫研究室に同定の協力を依頼する。

エ 検査機関

動物愛護相談センター 城南島出張所

(2) 犬及び猫の SFTS(重症熱性血小板減少症候群) ウイルス遺伝子モニタリング調査

ア 調査理由

SFTS は、2013 年に国内患者が報告され、西日本を中心として散発的に発生が報告されている。しかし、現在発生のない地域でも将来患者が発生する可能性が考えられ、身近な動物の感染状況を把握することは、人の予防対策の検討に有用と考えられる。

当所において、平成 30 年度から令和 2 年度まで犬猫の血清及び唾液を用いたウイルス遺伝子検査を行ったが、陽性の個体は認められなかった。

令和 5 年度は、収容された犬及び猫の口腔拭い液を用いてリアルタイム PCR 法による SFTS ウイルス遺伝子検査を実施する。

イ 検体及び調査規模

犬及び猫の口腔拭い液 犬 5 頭、猫 50 頭程度

ウ 検査方法

リアルタイム PCR 法によるウイルス遺伝子の検出

エ 検査機関

健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科

3 実施期間

通年

4 調査結果

調査結果は、城南島出張所でまとめ、動物愛護相談センターが開催する調査研究発表会で

報告する。また、東京都動物由来感染症検討会に報告し、内容を精査した後、都民や動物取扱業者を対象とした普及啓発材料として活用する。